

日光庵滝山行報告

【山行日】2024年1月28(日) 晴れ
【集 合】栃木市運動公園P AM 7:00
【費 用】マイカー2台 : 1800円
【メンバー】CL:鈴木ユ、SL 大西 飯野、
石澤、小林、鈴木ミ、関、野口、廣瀬、渡辺
【コースタイム】栃木市運動公園 P7:00＝
赤沼P8:20/8:45～小田代ヶ原P9:50/10:00～弓
張峠 10:20～庵滝 10:50/11:20～弓張峠
12:00/12:10～小田代ヶ原 P12:30/14:35～
赤沼 P14:30/14:40＝栃木市運動公園 P16:00



恒例の日光スノーシューハイク、今年は小田代ヶ原から庵滝を計画した。庵滝はテレビでもたびたび放映される人気のスノーハイクコースでもあり、前は車の駐車に苦労した。今年は赤沼駐車場が使用できるとの情報があり、日光自然博物館へ問い合わせると「駐車できます」との返事。



安心して栃木市運動公園を出発し、赤沼駐車場に車を駐車する。出発の準備を整え、積雪を確認すると雪の量がいつもより少ない。3日前に降ったばかりなのに積雪が少ないので、スノーシューは使用せずアイゼンで歩くことにして皆さんに伝える。道路の反対側のトイレに移動し、トイレとストレッチを済ませて出発する。アイゼンは持つように指示し、小田代ヶ原Pまではツボ足で歩いて行く。穏やかな冬晴れに恵まれて、スノーハイクには絶好の日和となり、初めて参加する

方達は楽しそう。湯川に架かる橋を渡り、ミズナラの林の中を軽快に歩いて行く。落葉した樹林の向こうに雪化粧した山々が見渡せ、皆さんに山の名前を聞かれて順番に山の名前を教える。アップダウンが少なく初心者にも歩き易いコースなので、会話を楽しみながら歩ける。シカ避けのゲートを過ぎると柳沢林道に出て、林道を少し歩くと小田代ヶ原 P に着く。東屋で休憩し、衣服調整や水分補給をしてアイゼンを付ける。林道をそのまま進み、弓張り峠を過ぎて下った所が庵滝への入口である。しっかりとトレースがつけられていて、昨日から大勢の登山者が歩いたようである。



踏み固められたトレースは歩き易く、初めての方達も楽しいと言いながら歩いていた。登るにつれ傾斜がきつくなり、急降下や急な登りが出てくるが問題なく登っていた。

途中で休憩を取ると、SL が遅れていて徳ちゃんに2人でゆっくり来るようお願いし庵滝へと向かう。



真白な雪と真っ青な空のコントラストが美しく、「雪山ってこんなに綺麗なんですね」と嬉しそうに言っていた。沢を2つほど越えて、急坂を登ると目の前に庵滝が見えるようになり、登山者の賑やかな声が聞こえてくる。庵滝に着くと手前の登山道で大勢休んでいた。我々も一箇所にザックを纏めて置き、沢を渡って庵滝の下まで行く。薄いブルーの氷瀑は神秘的で美しく、氷瀑の下で写真を撮りパチリ。反対側の大ツララの下でも記念写真を撮った。皆さんそれぞれの構図でブルーに輝く氷瀑をスマホに収め、

満足そうな笑顔で戻って来た。どら焼きやチョコ菓子を食べながら滝を眺めていると、SL と徳ちゃんが到着した。氷瀑をバックに全員で記念写真を撮り、我々は下山開始し2人はゆっくり休んで後から下る。野木山想会の皆さんやマロニエ HC 等のグループが登って来て、庵滝は大賑わいとなった。下りはルンルン気分で歩き、超高速で林道に着く。ここでアイゼンを外し、休憩すると SL と徳ちゃんが到着した。登りは高度障害が出てペースが落ちたが、下りは我々よりも超々高速で下って来た。林道を歩いて小田代ヶ原 P に着き、東屋でランチタイムとする。お湯を沸かしてカップ麺やスープを作り、おにぎりやパンをいただいた。ランチが済んだら赤沼に戻るが、2人は往路を戻り我々は小田代ヶ原を周回して赤沼に向かう。小田代ヶ原周回コースはあまり歩かれてなく、雪が柔らかくて歩きにくい。それでも日光連山の景色が素晴らしく、「歩いて来ないとこの景色は見られないね」と満足そうに歩いていた。赤沼駐車場に着くと2人が待っていて、靴を履き替えたら車に乗り帰路につく。スノーハイクには最高の天気に恵まれて、皆さん大満足の日となった。

